

むぎの郷

October 2015

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643
TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://muginosato.jp>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
住民の手によって育てられる

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/
麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/
はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/
けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/
ホームヘルプ麦の郷/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の
川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポ
ートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/麦の
郷高齢者地域生活支援センター/ソーシャルファームもぎなたて/事務所
/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所



2015 紀の国わかやま大会 10.24(土)~26(月)



2015 紀の国わかやま大会見学 10.24(土)
～和歌山支援センター～



きょうされん第38回全国大会inひょうご 10.9(金)/10(土)



私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。

紀の国わかやま大会 頑張れ、みんな!!

事前インタビュー & 結果報告♪



2015年10月24日〜26日に、第15回全国障害者スポーツ大会（紀の国わかやま大会）が和歌山で開催されました。この大会は、全国的な祭典である障害者スポーツ大会で、2001年より国民体育大会終了後に、同じ開催地で行われています。今年は、麦の郷から5名の選手が各競技で戦いを繰り広げました。その中から、今回は3名の選手に事前インタビューを取らせていただきます!!



宮本 高志さん

Q わかやま大会出場おめでとうございます。宮本さんは、何の競技に出場されますか？
A 陸上です。種目は、50m走と立ち幅跳びの2

種目に出場します。

Q 大会には何回目の出場になりますか？

A 3回目です。1回目は岡山大会（2005年）で、2回目は新潟大会（2009年）です。岡山大会の時は立ち幅跳びと50m走で、50m走が5位、立ち幅跳びが3位（銅メダル）でした。新潟大会は、50m走6位、立ち幅跳びが2位（銀メダル）でした。

Q 強化指定選手に選ばれ、練習に参加されましたが、どうでしたか？

A 強化練習に参加できてよかったと思っています。いろいろな人からアドバイスをもらう事ができて、よかったです。回数を重ねるごとに、監督やコーチとも顔なじみになり、楽しかったです。監督からも同じ種目でメダル獲得できるのは、珍しいと褒めてもらいました!!

Q なるほど、監督やコーチの人たちとも仲良くなって楽しかったんですね♪監督やコーチの他に選手同士ではどうだったんですか？

A 強化練習を通じて、仲良くなった選手もいました。以前、新潟大会の時は、大会中にも、他県の選手とも仲良くなれました。

Q 8月30日に行われた壮行会に参加してどうでしたか？

A 壮行会のリハーサルでは、スタンドに人も少なかったのに、いざ壮行会が始まる時には、観客や応援の人で満員!!!びっくりしました。今までに国体の選手と一緒に壮行会を行うという機会がなかったので、今回オリ

ピックに出ている選手もいたので、同じ舞台に立てることができてうれしかったです。

Q 今年は地元和歌山の大会ですが、

それについてどう思いますか？

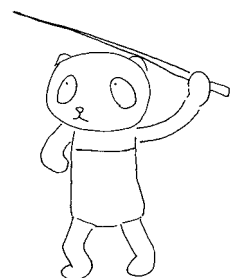
A まさか、地元での大会に出場できるとは思っていませんでした。2年前ぐらいに、強化指定選手に選ばれてから、夢であり目標でした!今、とっても緊張しています。他県で行われる大会では、あまり緊張しませんでした。が、やっぱり身近な人や地元の人が応援してくれると思うと、うれしい気持ちを通りこして、緊張が勝っています...多分大会が終わるまで緊張が続いていると思います。(笑)

Q 最後に大会への意気込みをお願いします。A メダルを目標に頑張るけど、緊張でいっぱいです。(笑)

Q インタビューありがとうございました。因みに、普段の仕事についてもインタビューしてみたいですか？

A 普段の仕事は、農業を中心に、野菜の収穫や1次加工、商品の販売を中心に頑張っています。心を許せる仲間と一緒に作業することが楽しいし、それが自分の原動力です。今年の冬には、3万本の大根を収穫と納品予定です。みんなで力を合わせて頑張ります!!

Q 以上、宮本さんへのインタビューでした!!



今回ラ・テールからわかやま大会に出場する中谷侑貴さんと井原浩志さんにインタビューをしたいと思います。



中谷侑貴さん

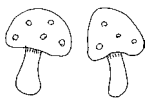


井原浩志さん

Q お二人よろしくお願ひします。

A 中谷 よろしくお願ひいたします。

A 井原 よろしくお願ひします。



Q お二人は何の競技(種目)に出場しますか？

中谷 水泳に出ます。50メートル自由形と、50

メートルバタフライと、メドレーリレーのバタフライに出場します。

井原 ソフトボールです。

Q 障害者スポーツ大会には何回目の出場ですか？

中谷 2回目です。

(以前は岐阜大会に出場したそうです)

井原 初めてです。

Q その競技は何歳のときからはじめましたか？

中谷 子供の時からです。

井原 コスモス支援学校に入ってから。

Q 練習はどのくらいしましたか？

中谷 1週間に1回〜2回と強化練習です。

(月1回〜2回ほどある、強化指定選手の練習)

井原 何回もした。

(1か月に1回から2回くらいです)

Q 和歌山での大会についてどうですか？

中谷 頑張ります。

井原 楽しみです。

Q 大会への意気込みをどうぞ！

中谷 金メダル取るように頑張ります!!

井原 首位になりたいです！

Q ありがとうございました！

Q 保護者の方より一言

《中谷さんのお母様より》

侑貴は母のお腹の中にいる時から泳いでいました。生まれてから1歳の時にはもうベブイスイミングに通い始め、26歳の今までプールで頑張って泳いでいます。3年前のぎふ大会に初めて参加し、全国レベルの高さを思い知らされ、それからはわかやま大会を目指して母が鬼コーチとなり厳しい練習に耐えてきました。しんどい!!という言葉を覚えたのも最近で、時には泣くこともありました。一度も嫌だと言ったことがなくついてきてくれる侑貴をホント愛おしく思います。わかやま大会では50mバタフライ、50m自由形、200mメドレーリレー(バタフライ)

に出場します。順位より自分らしい泳ぎができることを祈っています。

《井原さんのお母様より》

コスモス支援学校高等部在学中からのソフトボール部。引き続き卒業してからも、先生の御好意で月1回のペースで練習しています。けっして上手ではありませんが、子供の頃から好きだった野球にかかわれて、また、「わかやま大会」という数十年に一度の機会に参加させていただき、ありがたく思います。この機会を楽しんでくれたらいいなと思います。

大会結果

井原さん



【ソフトボール】

・準優勝

(銀メダル)

宮本さん



【陸上】

・立ち幅跳び

(金メダル)

・50m走

4位

中谷さん



【水泳】

・50mバタフライ

4位

・200m

メドレーリレー

・50m自由形

6位



「きょうされん 全国大会 in ひょうご」に 参加しました

10月9日・10日の2日間、神戸で「第38回きょうされん全国大会 in ひょうご」が開催されました。今年のひょうご大会は、「とどけたい20年のありがとう わすれない 震災を 伝えよう 私たちの今を 未来につなぐ 権利条約と平和」というテーマです。阪神大震災が起これてから今年で20年、そして戦後70年の節目でもあります。そんな節目である今年、全国大会が兵庫で開催されたことにすごく意味があることだと思っています。昨年1月に障害者権利条約が批准され、今後の施策の動向などを勉強したいと思い、参加してきました。

きょうされん大会では、いくつかのテーマに分かれて分科会が行われます。私は、「障害者権利条約批准をみんなのものにするために」という分科会へ。レポート発表を聞き、今抱えている問題や、取り組みについて伺ってきました。

障害者総合支援法が施行され、いずれは介護保険に統合されようと動いています。「65歳問題」。誰にも訪れる65歳。65歳になると介護保険が優先され、障がいのある人にも金銭



的に負担が押し掛かるという問題が起きています。

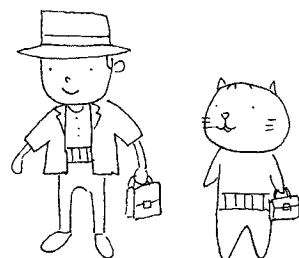
平成28年4月には、障害者差別禁止法が施行されます。一足先に、都道府県や市町村ごとに、条例づくりがされているところもあります。障がいの有無に関わらず、誰もが安心して暮らせる社会。それが「当たり前」の社会になると、運動を続けられないと改めて思いました。

閉会式では、きょうされんのグッズデザインコンクールの表彰式が執り行われました。入賞すると、夏季物品販売のグッズや、冬季物品販売のカレンダーのイラストとして使われます。また入賞した絵が、全体会の会場に飾られていて、さまざまな方法で表現された絵に見入られました。和歌山の仲間の作品も飾られています。その表彰式で、壇上に登った仲間たちの誇らしいこと。それぞれの仲間が嬉しさいっぱいの表情で、キラキラしていました。(今年も、くろしお作業所分場の仲間が描いた絵が入選しました！「仲間のうたカレンダー」の中に載ることになっています。)



無事に第38回きょうされん全国大会も終わり、来年は熊本大会です。5年後には和歌山大会も控えています。

今回の研修を通して、たくさんのご意見を改めて気付かされた1日になりました。今の情勢の動きなど、もっとしっかり勉強して、発信していきたいと思いました。私たち抜きで私たちのことを決められてしまわないように、みんなでよりよい社会を目指して進んでいけたらと思います。(道幸)



2015年度

わされん職員研修会に 参加して

わされんの研修は、他の事業所と交流を図り、最新の情勢や今後の政策、また、支援の振り返り、自分の知識を深めていくことが出来る非常に有意義なものである。今回も、初日は情勢報告やDVD観賞、防災についてフロアを交えた研修内容であった。情勢報告ではきょうされん全国理事である鈴木氏よりお話しただけで、メディアで知る安全保障と同じ視点を持った支援者の見解が交わることにより、身近に平和を考え、今後の自分達の役割や運動を考えることが出来た。また、防災については災害に遭われた事業所のお話や各事業所の防災についての取り組みを聞くことで、より身近に災害時支援を考えることが出来た。

二日目の研修では社会福祉法人制度と成年後

見制度について研修を行った。わされん 米川会長より同じ支援者としての視点を交えてお話し頂いたことで、事業所の担うべきものや雇い主・雇われる側と分かれるのではなく、法人職員として運営を考えることの重要性を感じた。

また、相談支援をしていく上で非常に必要な知識である成年後見制度についての研修では、日頃から関わりのある成年後見紀の国サポートセンター 瀧氏より事例を交えたお話を伺い、制度の内容や今後の課題など、分かりやすく学ぶことが出来た。自分にとって不得手な部分である法律を分かりやすく学べたことで、本人主体の支援と権利擁護に対してより一層、質の向上と他機関との連携が重要だと感じた。

今回で2度目の参加となったわされん研修会であるが、他の事業所との交流や多職種との連携が出来たと思う。ただ、2020年の和歌山での全国大会を見据え、若手の育成が必要と感じる中で研修会への参加者が少ないように感じた。先人の教えを受け継ぎ、発展させていく次世代の担い手の育成についても考えなければならぬと感じた研修であった。

(谷口)

10周年記念サプライズ旅行

はぐるま共同作業所 ラ・テール

今年も恒例の旅行に行ってきました！しかし、今年はいつもの旅行と一味違います。なぜなら今年にはラ・テールが開所して10年。10周年記念旅行」と題して、普段は中々行けない北海道の道東への2泊3日の旅行となりました。

6時過ぎに和歌山駅を出発し、飛行機を乗り

継ぎ釧路には13時半に到着。そこからバスに乗り、釧路湿原展望台でスケール

が違つ北海道の雄大な景色に感動を抱きながら、1日目の宿泊地、阿寒湖温泉に到着しました。いつもはすぐに温泉に向かいますが、今日は少し我慢をして先に夕食を済まし、まだ和歌山では今シーズン着ていないであろう防寒着に着替えまして、楽しみにしていたスターウオッチングに出かけました。和歌山でも山間部に行けば星は綺麗に見えるのですが、車から一人降りるたびに「えー！」「すごい！」と声が上がるほど、和歌山では見たことのない満天の星空！ガイドの方がレーザーポインターを使って星座の説明をしてくれたあと、少し歩いてオンネトーの湖へ。そこには水面に鏡のように映る星たちが……。いつもにぎやかなラ・テールのなかまもあまりの感動に静かに観賞しました。

二日目、出発し一路摩周湖へ。霧の摩周湖で有名ですが、この日も雲一つない青空！「摩周ブルー」と呼ばれる青い湖で記念撮影をし、標津にあるサーモン科学館へ。時期としては少し遅めでしたが、故郷に戻る鮭の姿も見られま



した。その後バスは北方領土である国後島を横目に見ながら知床峠へ。知床峠の頂上から見える羅臼岳は、夕暮れで真っ赤に燃えたように見え、頂上は先日積もった雪で白くお化粧をしていました。峠を降り、2日目はウトク温泉にて宿泊しました。夕食はバイキングで北海道をお腹いっぱい味わった後、一行は別の部屋へ。何が始まるのかと思いきや、ラ・テールがこれまで歩んだ10年を振り返ったDVDを職員が作ってくれており、一同感動の涙……。そして一人ひとりへ感謝の思いを綴った感謝状を手渡され、更に感動……。みんな、喜んでくれたかな？

そして最終日。ラ・テールと同じく、世界遺産登録10周年を迎えた知床の自然豊かな地でエゾシカやキタキツネと出会ったり、オホーツク流水館で本物の流水がガラス館へ。思い思いに手作りガラスやビーズを使ってストラップ作りを楽しみました。しかし楽しい時間ほど早く過ぎてしまつたので、女満別空港に到着し、まつきー(バスガイドさん)、運転手さんと名残惜しい別れをし、一同は和歌山に帰ってきました。

これまでの10年間のアルバムに今回の旅行の思い出を新たに刻み、今後頑張りたいと思います。みんな、ありがとう。これから、よろしく。(湊)



湯浅の古い街並みを

散策しました

第二じか園 ほけつと

ほけつとでは、曜日ごとに小学生から高校生の子どもたちの放課後や余暇に、四季折々の遊びを通じて友だちと豊かな時間をすごしています。

気候もすっかり秋になった9月、土曜日の中高生のメンバーで、

有田郡湯浅町の古い街並みを散策しました。

お昼ごはんを地元の食堂で食べた後、みんな地図を見て散策のコースを確認しました。ゴールとなる「湯浅おもちゃ博物館」を目指して、地図を片手に散策開始です。知らない街を子どもたちが相談しながら歩いて行くのですが、地図に書かれた目標物を頼りに、友だちと一緒にだと不安な様子もなく元氣いっぱい軽い足取りで散策を楽しんでいました。この周辺は、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、また、醤油発祥の地として、いまもなお幾つもの醤油醸造業者が軒を連ねています。

そんな街並みで、保存された古民家や醤油蔵などを見つけては立ち寄り、街のあちろちろにある休憩所では地元のご老人にお話を聞いたり、昔の銭湯の後を利用した資料館「甚風呂」などを見てまわったりと、いろいろな人や風景との出会いがありました。



さて、道に迷いながら1時間余り歩いて、やっとゴールの「湯浅おもちゃ博物館」にたどり着きました。古い民具やおもちゃの数々が展示されており、館長が子どもたちが見たこともない古いおもちゃの説明を、みんな興味深げに聴いていたのが印象的でした。

このように、街に出て色々な経験を重ねていくことが、これから社会にはばたく学齢期の子どもたちにとって意味のあるものとなるように、ほけつとではこれからも子どもたちと活動を展開していきます。

(魚住)

大台ヶ原登山合宿

はぐるま共同作業所 結い

9月27、28日大台ヶ原登山合宿を行いました。自然をたっぷり全身で感じながら、なかまと一緒にいろいろな体験ができた合宿でした。なかまの感想を紹介します。

《案山子祭り和大台ヶ原合宿》

○1日目は、奈良県の案山子ロードを歩きました。いろいろなおもしろいかかしとかがあって楽しかったです。大台に着いてからはけつとう疲れただけ、夜はお月さんを見て疲れがとれました。2日目は大台ヶ原を歩いて、景色とかも見たり写真とつてもらったりしました。いいお天気でよかったです。また登山に行きたいです。

○2日目の朝、山を登ることになりましたが、そばの自販機で飲み物を買うことになって380円も損しました。でも、浦口さんがサイダーを買い取ってくれました。1日目の月見の夜、田中さんに月まで飛べと言われまし

た。ムリだよ。それにしても藤安さん残念でしたね。こんな日に風邪ひきて休みなんて。

○奈良と三重県に行きました。月見だんごを食べました。大台ヶ原へ行きました。テレビがおもしろかったです。大台の時、夜は西端君がチャンネルをかえた。朝は秦君がチャンネルをかえた。田中さんが「あさ」見たかったのにおかあさんといっしょをみた。大台の部屋で西端君と秦君が懐中電灯をやりました。西端君が寝る時に電気を消しました。

○テレビがおもしろかったです。山を登りました。かかしが楽しかったです。懐中電灯がおもしろかったです。

○この間のかかし祭りを見に行きました。いろんなかかしを見ました。お昼ご飯を食べに行くときにスポーツカーを見ました。お昼はチーズハンバーグを食べました。おいしかったです。大台ヶ原に行く途中で霧が出ていました。大台ヶ原の山小屋に泊まりました。食事の前にお風呂に入りました。食事は魚と豆腐とつけものとみそ汁とごはんとしし肉とサラダを食べました。月と星を見ました。だんごを食べました。朝には山に登りました。疲れただけと楽しかったです。山から下りる時、山の水を飲みました。おいしかったです。お昼は天ぷらうどんを食べました。おいしかったです。帰りに温泉に入りました。帰ってくる途中で川で釣りをしている人を見ました。高速で蒸気機関車を見ました。(市川み)



事業紹介①

麦の郷 紀の川生活支援センター

今回より、不定期シリーズ『事業所紹介』がスタートしました。
知っているようで知らなかった、各事業所の取り組みを紹介していきます。

人口約66000人の紀の川市に麦の郷紀の川生活支援センターがあります。1995年に現在の岩出市に誕生した支援センターは、2006年に紀の川市に移転して紀の川市から相談支援事業と地域活動支援センター事業を受託。さらに2009年に県からひきこもり者社会参加支援センター事業を受託し活動していましたが、ひきこもり者社会参加支援センター創設は今年2月に粉河の山崎邸に移転し、再スタートを切りました。

相談支援事業では昨年度、面接・電話・訪問・調整等で8000件を超える相談がありました。この相談を年齢別にみると、どの年代からの相談もほぼ均等にあり、中でも50代60代の当事者と高齢の親のふたり世帯でざりぎりまで親が抱え込んでいたケースもあり、早期につながることの重要性を感じています。また、4000件が調整で、たくさん関係機関とのつながりで多くの人の支援ができています。今後も、地域の連携を広げ深めながら、多くの地域の人に啓発することで早期につながるよう努めたいと思います。

地域活動支援センターでは、昨年度延べ利用

者数が4500名あまりで、1日あたり20名ほどの利用があったことになり、心してのんびり過ごすことのできる居場所であるとともに、利用される人たち

が「これをしてほしい」と希望する活動（料理、季節ごとのレクリエーション、アート活動、土曜日レクなど）をおこなっています。

また、センターではピアサポートの活動に積極的に取り組んでいます。このピアサポートの活動には、ゆかいな会（わかい精神障害者をもつ家族の会）、つどう（発達障害のある人のピアサポートの会）、カーム（精神に障害のある人のピアサポートの会）、子育てカフェ（障害があり子育てをしているお母さんの会）、Fuklover（あざとともに生きる会）、みんなの交流会（センター利用者の会）があります。

この中で、大御所的存在が2003年に誕生した「ゆかいな会」です。誕生して12年の間にたくさん家族がつながり、日ごろだれにも言えない悩みを出し合い、近況報告、子ども自慢に自分の成長ぶり…どんなことも話し合える会となっています。そして、今年からは高齢化した紀の川市精神障害者家族会と合併し、40代から80代までの人が集まって一層充実した活動ができるようになってきました。

そして、新進気鋭の活動が、精神に障害のある人のピアサポートの会「カーム」です。20



地域活動支援センター お昼のひと時

13年に誕生し、毎月2回集い語り合っています。また、県精神障害者ピアサポーター研修にも積極的に参加し、ピアサポーターとして退院促進事業の一役を担うとともに、地域や大学などでの講演活動もおこなっています。

このように仲間とつながり、支え支えられるピアサポートの当事者組織は、相談支援を通して、当事者や家族が社会へ目を向けられるようになったことや人との交流を願い始めた変化など、ニーズを敏感にとらえて願いに応えることで集まりや活動を生み出してきました。

また、開所以来大切にしていることが「地域ネットワーク」ですが、とりわけ毎年12月に開催する「障害者週間・広げねネットワークイベント」の事務局を担当し、講演会・福祉施設等職員学習会・アートプロジェクトなどをおこなっています。今年15回目となるこの取り組みで今後も那賀圏域の障害児者関係のネットワークの構築と地域への啓発を目指します。

これからも紀の川生活支援センターは、すべての人の人権を守り、一人ひとりを認め合い、だれもが地域で暮らす・働くというあたり前の願いの実現のために、地域のたくさんの人に『つたえること』、たくさんの人と手を『つなぐこと』、人と人を『つなげること』、ネットワークや社会資源を『つくること』を目指して活動をすすめていきたいと思っています。

（藤本）



ピアサポートの会「カーム」の定例会

ひと×表現×まち×アート×描く×ちんどん×映像×縫う×だるま×つくる×踊る×めぐる Po-zkk (ポズック) 「旧称：ポングリ図画耕作所」

新拠点 購入・活動資金の募金についてお願い

むぎピース就労継続支援事業B型 出張所で活動をおこなって1年が経ちました。新たな仲間も増え、活動をより広げるために新しい拠点（建物）を購入し、就労継続支援事業B型事業所の事業申請を行い再出発したいと思います。名称も新たに社会福祉法人 一麦会 就労継続支援B型事業所「Po-zkk (ポズック)」と改名し、新たな歴史を刻みたいと思います。

Po-zkk (ポズック) は、余暇としての芸術・創作ではなく、「描く」「つくる」「踊る」を仕事にし、表現を仕事にするTotal Work of Art Groupを目指し、豊かな仕事と生活を共に創りだしていきたくと思います。

少しでも多くのご寄付を集めたく思いますので、誠に勝手なお願いではありますが、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■Po-zkk 施設立ち上げ委員会■

《問い合わせ》住所 紀の川市粉河853-3 / 電話 0736-60-8233

担当 野中康寛、閑林 泉、奥野 亮平、奥野 麻美、森橋 美穂、山崎 正恵

げーじゅつ の 秋



助成ありがとうございました

第二こじか園

社会福祉法人 和遊協社会福祉事業協力会様より AED を助成して頂きました。

平成 27 年度助成金交付決定を受け、10 月 15 日にアバロームにて贈呈式ならびに設立 25 周年記念式典に出席させて頂きました。助成して頂いた AED は子供達の緊急時に備えたいと思います。

ありがとうございました。



ホームページアドレス 変更のお知らせ

プロバイダの変更により、麦の郷のホームページのアドレスが変わりました。

『むぎの郷つうしん』のバックナンバーも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

新アドレス

www.muginosato.jp



本部事務所
仁井村 和子

本部事務所の仁井村です。はぐるま共同作業所ラ・テール、麦の郷和歌山生活支援センター、むぎピースの事務、会計を担当させて頂いています。社会福祉法人の事業の経験がなく、はじめは戸惑いもありました。日々皆さんに色々教えて頂き、仲間からも学ばせて頂く機会もたくさんありました。普段は、事務所で仲間と接することが少ないですが、作業所の旅行、夏祭りやよさこいなどのレクレーションに参加させて頂いて、名前や顔も覚えてもらい輪の中に入れていただく機会も多くなり、うれしく思っています。当直も毎回、不安と緊張ですが、わからない事は教えてもらいながら、させて頂いています。

子育てを終わって、今までのいろいろな経験を自分らしく力として、何かできればと思っています。また、いろいろ教えてください。これからも、よろしくお願いいたします。

平成28年(2016年)
中蔵
年賀状印刷
ご注文受付中!!
ご注文はFAXでもOK!

年賀状印刷
承ります

麦の郷印刷
TEL
073-464-3707
FAX
073-464-3708